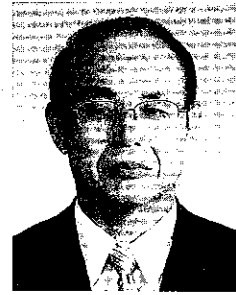


## 二律背反を克服して！



廣 東 道 博 Michihiro Hiroto

昨年、理事に就任させていただき、未だ皆様との交流も浅く、僭越とは思いましたが、事務局長からのお話もあり、巻頭言へ寄稿させていただきました。

70年以来とも言われる、一昨年のリーマンショックに始まった不況は、世界規模の大波となって押し寄せ、輸出に依存する日本経済は大打撃を受けました。経済再生を図る中で、政権交代が起こり、日本のあらゆる面で、変革が進められていますが、未だ、本格的な復活の兆しは見えません。まさに、日本人および日本産業は、何処に活路を見出すかが問われる大きな転換点に立っていると言えます。勤勉で器用な日本人が、変わり行く経済地図に乗り遅れることはないでしょうが、そのためには、否応なしに相反する状況を乗り越えなければなりません。

早稲田大学の遠藤功教授の書かれた「ねばちっこい経営」の中にあつた「二律背反を克服して」を巻頭言の表題とさせていただきましたが、何分、素人の筆であり、適切でないところもあろうかと思いますが、ご容赦ください。「ねばちっこい」は、茨城の方言であり、納豆の「ねばねば」を思わせます。私も茨城の片田舎に居を構えていることから、興味を持って一読しました。

「二律背反」の例としては、「コストを下げながら、品質も良くする」、「機能性を上げながら、デザインも良くする」、「販売を効率化しながら、お客の満足度を上げる」ことなどが上げられ、「皆で知恵を出し、努力を重ねて克服する」ことが求められます。この本を読んだ頃から、経済は下降線をたどり、難しい経営判断を求められる状況となりました。私はこの言葉を日常の業務の中で引用し、活路はないのか模索し、思い悩みました。

この「二律背反」の言葉には、どんな由来があるのか、調べてみましたところ、この言葉は大変難しいので、「国語辞典を買うときは、二律背反の説明を何冊か見比べて、一番分かりやすい物を購入せよ」とまで言われていることを知りました。元々は「法律の条文に、つじつまが合わないところがあること」を意味するギリシア語のantinomiaであり、anti=反してとnomo=法律を合体した言葉でした。同一法典内での個々の法律の矛盾を言

い、転じて哲学としては矛盾する二つの命題を言い、経済学では、二つの政策が同時に成立し難い状況を言うとのことでした。法律や哲学は、私の入れない世界ですが、経済的には、「失業対策として景気拡大策を行うと物価上昇を招く、逆にインフレーション対策として景気縮小策を行うと失業が増大する」ことでした。まさに、今、日本は、このように相反する問題をどのように克服すべきか問われる時代に突入した（戦後の経済復興をなされた、先輩諸氏に言わせれば、それは当たり前と言われるかも知れませんが）と考えられ、当面の失業問題、少子高齢化、省エネ・環境投資、そして変遷著しい世界の消費地など、日本人の持つ戦後復興のDNAに、もう一段ステップアップした発想が重要だと思います。

自動車、家電などの産業は既にグローバル化しておりますが、日本経済の安定化のためにはより多くの産業がグローバル化しなければ変化に追従できないとも言われております。私たちの空気清浄技術は、ISO規格などで世界へ向けて発信しておりますが、それ以外の分野も含め、本格的に全世界に向けて発信すべき時だと思えます。

日本の空気清浄技術は世界トップクラスにあり、日本の最も厳しい品質基準を満足し、世界の最先端産業を支えています。この技術は、世界に誇れると共に、オールラウンドな「世界標準を確立できる力」を持っています。

グローバルに拡大するハイテク産業のクリーンエアのニーズ、医療や食品分野での安全のニーズ、環境関連の規制強化への対応だけでなく、省エネ・環境志向の高まり対しても、日本の空気清浄技術こそが地球温暖化の防止を可能にするのではないのでしょうか。

色々な産業間の問題、世界各国との課題は、「二律背反を克服する」ことで乗り越えられます。これに積極的に挑戦しなければ、私たち日本人、日本産業は活路を失ってしまう恐れがあります。

こうしたことから、日本の空気清浄技術を支える社団法人日本空気清浄協会は、各社、各ご加入のみなさまの協賛を得て、益々、世界に発信し、そして世界を引っ張る存在となることを切望しております。